

Title	平成21年度プロジェクト科目年度末報告会
Sub Title	Project course 2009
Author	小嶋, 祥三(Kojima, Shozo)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	活動報告書 Vol.3, (2009.) ,p.37- 37
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20100300-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成21年度プロジェクト科目年度末報告会 Project Course 2009

13

開催日 2010年1月30日
企画 全体
講演者 平成21年度プロジェクト科目履修者

平成21年度のプロジェクト科目履修者は13名である。そのうち、少なくとも3名は共同研究で1つのテーマを検討したので、11のテーマが実施されたと考えられる。しかしながら、5テーマでは発表がなかった。そのうちの1テーマは他の講義と重なり時間がとれなかったとのことであったが、他の4テーマに関しては発表されなかった理由は不明である。共同研究の発表は1名で行ったので、全部で6件の発表となった。参加者は発表者と教員であったが、発表者以外の大学院生はほとんどおらず、また、教員の参加は領域によりばらつきが目立った。発表後に杉浦社会学研究科長より挨拶があり、修了証を交付し、記念撮影を行った。

杉浦科長は挨拶でプロジェクト科目の意義を述べた。その内容に同意見であるが、重複をいとわず以下に感想を述べる。この科目は既存の枠にとらわれない領域横断的な側面が強調されていた。それゆえ、指導教員以外の教員を担当教員とすることが期待されていた。専門が異なる教員と議論をすることにより、また、異なる領域の研究法を取り入れることにより、大学

院生が自らの学問世界を広げることを可能にしようとした。このような試みが成果を生むには、少なくとも大学院生と教員の双方にこの科目の設置意図に関する明確な意識が必要と思われる。個々の発表の内容に関してはそれぞれ普段の努力のあとがうかがえたが、設置意図の観点からは疑問がないわけではなかった。また、この科目の自由さが手続き面にも及び、研究テーマ、担当教員、講義の実施が必ずしも明確でないことにつながっていた可能性がある。発表者が少なかったこととともに改善すべき点があると考えられる。(小嶋祥三)

A debrief session for Project course 2009 was held on 30th January 2010. Although eleven projects were planned this year, only six presentations were given disappointingly. At the end of the session, certification of Project course 2009 was awarded to each student. However both faculties and students should understand the aim of this course clearly to facilitate interdisciplinary researches.

